

Link

KOMAZAWA
UNIVERSITY

2013.5
Vol.3

駒沢移転100年
記念号

～未来に繋がる自分へ繋げる～
いまあらためて思う、わたしたちの「絆」とは



いまあらためて思う、わたしたちの「絆」とは

3大学が一丸となって取り組んだ 「銚子地域の活性化プロジェクト」

経済学部
長山宗広ゼミ

経済学部現代応用経済学科3年 相田雄貴(ゼミ長)
経済学部商学科3年 浜田大豊
経済学部現代応用経済学科3年 露崎絢子
経済学部経済学科3年 浅野 愛 ※氏名は取材実施者(以下同様)

毎年、フィールドワークの一環として市町村に赴き、その街の社会調査を行っている長山ゼミ。昨年は千葉県銚子市にスポットをあて、「銚子地域の活性化プロジェクト」に挑んだ。これは、地元・銚子信用金庫から全面的に支援を受け、立正大学と桜美林大学の3大学合同で実現した初のプロジェクト。約100人の学生が銚子市を訪れ、「人」「企業・産業」「行政」の3つの視点から“まち”を分析、地域活性化プランを考案した。

「震災で、銚子市も多大な被害を受けました。地域を再生し活性化していくために、私たちに何かできないかと企画したのがきっかけです。事前に銚子地域の統計資料を調べ、活性化に向けての課題を探りました」(ゼミ長・相田さん)。実地調査は、3泊4日の合宿で実践。地元企業や自治体に聞き取り調査をするなど、それぞれが役割をもって進められた。



TOKYO三ツ星バザールで販売した「ライスバーガー」。

「私は“コミュニティー班”に属し、住民同士の交流の現状を調査しました。自治会の方にお話を伺ったところ、観光地は住宅地よりも地域との交流が薄いことがわかり、同じ市内でも場所によって違いがあることを実感しました」(浜田さん)。「私は“まとめ班”として、地域の皆さんに銚子に対する思いをヒアリングしました。すると、“こんな祭りをやってみたい”など、銚子の活性化に強い情熱を抱いている方の意見を聞くことができ、心強く感じました」(露崎さん)



こうして作り上げた活性化プランは、合宿最終日に市内ホールで開催されたシンポジウムで発表。その中で、すべて銚子産の食材を使用した「ちゅうわ弁当」とさんまの蒲焼きを使った「ライスバーガー」の“銚子名産品”も提案された。するとこれらが見事、商品化が実現。昨年秋に、新宿駅西口広場で開催された「TOKYO三ツ星バザール(昭和信用金庫主催)」で販売された。

「現地を訪れたことで銚子の良さを知ることができました。合宿後は、学びを深めるために論文にまとめ、他大学と論文交換会も行いました」(浅野さん)。

さらに、駒澤大学ではこのような地域と連携した活動を継続していくために、昨年6月に昭和信用金庫(本店:東京都世田谷区)と「産学連携協定」を締結。今年度、長山ゼミでは昭和信金の支援を受けて、“下北沢商店街(東京都世田谷区)”の活性化プランに着手する方針だ。



「銚子市活性化プロジェクト」の経験で培った力を、今年実施する「下北沢商店街」活性化プランへと繋げていく。ゼミ生同士の“団結力”も、また一段と強まりそうだ。

CONTENTS

- 02 駒大学生の見解
～いまあらためて思う、わたしたちの「絆」とは～
- 06 廣瀬良弘新学長に聞く
- 08 特集 駒沢移転100年
～未来に繋げる道標～
 - ・駒沢移転100年 それぞれの「昔と今」
 - ・100年を受け継ぐ先達からのメッセージ
 - ・現役学生100人から未来の学生へ
- 14 卒業生
スペシャルインタビュー
 - ・塩沢 慎さん
 - ・石元悠生さん
- 16 駒大OB師弟対談
松鳳山裕也 関 × 館岡儀秋 相撲部監督
- 18 研究レポート
法学部
大山礼子教授
グローバル・メディア・スタディーズ学部
アシュエル・ティム教授
- 20 駒澤大学の社会貢献
～社会との連携で未来に繋げる～
- 22 社会に飛び立つ駒大生・駒大OBの企業人に聞く

広報誌LINK 第3号
平成25年5月20日発行
制作・発行/
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢1-23-1
駒澤大学 総務部 広報課
TEL.03-3418-9828

開校以来130年を超える伝統のある駒澤大学。その長きにわたる学びのプロセスには、
ともに過ごした学生同士にたくさんの繋がりを紡いだ「絆」の歴史がある。
人と人の繋がりの大切さにあらためて気づかされるいま、
駒大の現役学生もかけがえのない「絆」を育みながら、いまを過ごしている。
今回、3つのグループに登場してもらい、それぞれの思いについて聞いた。





社会教育主事講座による地域交流イベント 「わくわく列車」で人々の“絆”を繋ぐ

社会教育主事講座 受講生

仏教学部仏教学科平成25年3月卒業生 河合由加さん
文学部地理学科地域文化研究専攻4年生 嶋原とも子さん
文学部歴史学科日本史学専攻3年生 秦彰寛さん
法学部政治学科3年生 吉澤里穂さん

今年3回目を迎える地域交流イベント「わくわく列車」。「社会教育主事講座」受講生の有志が実行委員会となり主催するイベントで、毎年2日間、つつじが丘小学校（横浜市）にて、地域ボランティアとともに多世代が楽しめる催しを開催している。初代委員長を務めた河合さんは、「学校と地域の結びつきが薄い今日、私たちに何かできないかと思いこの企画がスタートしました。同校の校長先生とのご縁もあり、イベント当日は世代を超えた交流を実現することができました」と振り返る。

“わくわく列車”とは、都内にある山手線のレールを地域の輪にたとえ、各駅に楽しい企画があることをイメージして名付けたタイトル。サブタイトルに「地域の“わ”を広げよう」を掲げ、エコキャンドルづくり体験や、校舎の屋上から夜景を眺めるイベントなど、多彩な企画を実施した。当日は雪が降る中、約450人が足を運び、地域のふれあいの

場が実現したようだ。

続いて2回目は昨年5月に開催。初回を受け継ぎ、2回目のサブタイトルは「ぎざなづくりプロジェクト」を掲げた。「震災を経験し、改めて地域の絆の大切さを実感。そこで、絆づくりのきっかけができるイベントを意識して作り上げました」（2代目委員長・嶋原さん）。当日は、地元中学校美術部が手がけるおけ屋敷や吹奏楽部によるオープニングイベント、給食を作るイベントなど地域色を生かした催しを開催。このイベントで100人以上がボランティアとして参加したため、「地域の人同士が知り合いになれた」と嬉しい成果があったという。さらに、2日間で約700人が来場し会場が大いに盛り上がった。

そして、今年5月には3回目を開催予定。現在、イベントの準備が進められている。「これまでの実績を基盤にしなが、さらにイベントの認知度を高めて開催する方針です。

サブタイトルに『みんなでつくろう 地域の和』を掲げ、安全面に配慮しながら3回目のカラーを盛り込んでいきたいと思います」と3代目委員長の秦さん。「貴重な機会なので、地域の方たちとより信頼関係を築けるよう努めていきます」（吉澤さん）と意欲的。地域の輪を広げ、絆を作り上げてきた“わくわく列車”。今後も走り続けていく。



今年さらには地域ボランティアを増やし、幅広い世代が楽しみながら交流できるイベントを企画。元氣いっぱい走り続ける“わくわく列車”に期待したい。



スポーツ新聞『コマスポ』で 駒大アスリートたちの活躍を情報発信!

**駒澤大学
スポーツ新聞編集部**
(マス・コミュニケーション研究所内)

編集長 文学部国文学科3年 森下和貴
陸上競技部担当チーフ 法学部政治学科3年 町田敦子
硬式テニス部担当チーフ グローバル・メディア・スタディーズ学部
グローバル・メディア学科3年 小野沢権悟

活躍が目される駒大の体育会所属の学生アスリートたち。その活動をきめ細やかに取材し、情報発信しているのが「駒澤大学スポーツ新聞編集部」(マス・コミュニケーション研究所内)である。同編集部では、季刊紙『コマスポ』を通常年4回刊行。今年は陸上競技部が箱根駅伝復路優勝・総合3位と快挙を成し遂げたため、号外も発行された。アスリートたちの熱い戦いが伝わる、本格的な紙面づくりが評判だ。

「『コマスポ』で主に取り上げるのが、陸上競技部とサッカー部、そして硬式野球部です。陸上競技部は、大学三大駅伝の常連校ですし、サッカー部は近年、多くのJリーガーを輩出する強豪チーム。硬式野球部は東都大学リーグ1部での優勝経験豊富な伝統校として知られています。彼らの活躍を取り上げ、一面を飾ることが多いですね」と森下編集長。同紙では、クラブごとに担当を決め、取材から記事作成、校正まですべて学

生である編集部員が作り上げていく。一面記事は、全員で話し合い、どのクラブを取り上げるか決めていくそうだ。

このほど箱根駅伝の号外で一面を飾った陸上競技部担当チーフの町田さんは、「注目度が高い一面の制作は、大変やりがいを感じます。選手のコメントをうまく引き出すことはもちろん、一面は写真も重要です。選手の良い表情が撮れるように、多くのマスコミに混ざって、私たちも真剣に勝負しています」と熱意を見せる。

一方で、中面には多彩なクラブが顔をのぞかせる。“どの記事も全力で取材”という言葉どおり、小さい記事にもイラストが施されているなど、思わず目にとまる工夫が満載だ。硬式テニス部担当チーフを務める小野沢さんは、「テニスの試合は、天候によって中止になることがよくあるため、実施されるときは必ず取材に行く決めてしています。そのため、選手からの信頼も得て、インタビューでは心

を開いてくれるようになりました」と話す。

今年の春号は通巻67号目。OBとの繋がりも深く、箱根駅伝時にはツイッターを通じて情報提供することも。「受け継がれてきたものは大切しつつ、新しい企画にも積極的に取り組んでいます。一人でも多く、駒大のアスリートたちとコマスポの熱烈なファンになっていただきたいですね」(森下編集長)。



「コマスポ」の発行部数は約1万部。ウェブサイトでも記事閲覧することができる。記事下の広告もすべて編集部員が担当し、随時広告募集中とのこと。また、毎号自宅に本紙が届く「コマスポ応援会員」(有料)も募っている。

廣瀬良弘 新学長に聞く

駒澤大学は2012年に開校130周年、そして2013年の本年、駒沢移転100年の節目を迎えた。「仏教」の教えと「禅」の心をよりどころに、長きにわたる歴史と伝統のなかで、駒澤大学固有の理念を受け継いできた。最先端の学問研究と人格の形成に重点を置きながら、きめ細やかな教育を実践する駒澤大学の教え。その建学の理念について、廣瀬良弘学長に聞いた。

建学の理念、「行学一如」。 優れた「行」によつてこそ、 本物の「学」が成り立ちます。



ここだけの
ハナシ!

廣瀬学長
一問一答



◎ 平均睡眠時間は?

6時間くらいかな。毎晩0時過ぎには就寝して5時か6時に起床。本当は7時間くらいの睡眠が理想です。

◎ 趣味は何ですか?

中学までは長距離と野球。高校から油絵を始め、その名残で今は水墨画?を愉しんでいます。

◎ リフレッシュ法は?

全然強くないんだけど、少しお酒を嗜むことかな。清酒の久保田と八海山が好きですね。

◎ 座右の銘を教えてください。

やはり「修証平等」と「只管打坐」でしょう。

◎ 尊敬する人は?

道元禅師ですね。

◎ 好きな俳優は誰ですか?

内野聖陽さん。若い頃に内野さんの生家(寺)の古文書を調査整理させていただきました。

◎ いつも視ているテレビ番組は?

少し前は韓流ドラマの「チャンギムの誓い」を欠かさず見ていました。いまは「相棒」かな。テレビは好きだけど、あまりはまると仕事ができなくなるので控えるようにしています。

◎ 好きな作家を教えてください。

藤沢周平。作品は「蝉しぐれ」ですね。

「人間形成と学問研究は「一つのこと」という教え

仏教の教えと禅の精神。それを建学の理念とするのが駒澤大学です。教育・研究の基礎となるべき本学の建学の理念は、「行学一如」という言葉で表されてきました。

この言葉は、曹洞宗の開祖・道元禅師のもっとも代表的な教えである「修証二等（しゆじょうういつとう）」の精神を、大学の教育理念として表現し直したものです。修（坐禅修行）と証（悟り）は一体であり、悟りは、彼方にあるのではなく、坐禅修行が悟りそのものであるとしたのが修証二等です。つまり「行」という実践を最重要視したのが道元禅師なのです。

「行」とは、自分を優れた人間として育て上げる自己形成のこと、「学」とは学問研究を表します。そして「行学一如」とは、大学では自分をより優れた人間に成長させることと学問研究に励むことは一つのことである、という意味

なのです。

常にアクティブな姿勢で学問研究に取り組む「行」によって、学問研究は本物の「学」として自分の血となり肉となる。それは、社会で果敢に生き抜いていくための力強い土台となるものです。

伝統を重んじながら未来への挑戦を続ける

もう一つ、道元禅師の代表的な教えに「只管打坐」があります。ともかく、ただひたすらに坐禅をする。ただ二筋に、一つのことと専念することの尊さを説いた言葉ともいえます。

人は何かに一生懸命取り組んでいる姿がもともとも尊い。言うなれば、その時その時が立派な「動き続ける完成体」なのです。高みを目指しながらも、一つひとつの階段を上っていく、その瞬間そのものが貴重なのです。果てなき高みを求めながら、立ちすくむことなく、目の前の一步を大事に踏みしめていく姿こそが美しいのです。仏教の教えと禅の精神が息づく高い倫理観、思いやりや

気配りの心。本学には「仏教と人間」という授業のように、他大学にはない人間教育の学びと実践があります。

大学で学問研究を強調するのは当然で、「思いやり」まで言う必要があるのかという意見の方が多いいと思います。しかし、この人間としてあたりまえのことを「行」として求めるのが駒澤大学の特色なのです。

優れた人間形成と高い学問研究。「行学一如」の教えは、昨年開校130周年を迎えた本学の基本精神として永く生き続ける普遍の理念です。そうした伝統を重んじつつ、未来に挑戦していく気概。「伝統と創造」の想いととも、駒澤大学の新たな一步を刻んでいきたいと思えます。

廣瀬良弘 ひろせりょうこう

昭和22年生まれ。駒澤大学学長。駒澤大学文学部教授。1987年4月に文学部歴史学科専任講師として就任。95年に教授となる。専門は日本史。とくに禅宗研究では優れた実績を誇る。2006年4月から2013年3月まで陸上競技部部长。現在、日本歴史学協会会長。

Q では好きな映画は？

「もののけ姫」です。網野善彦さんという方の歴史研究に基づいたアニメで非常に深みがあります。もう一つは「砂の器」。この作品に出てくる人は、悪い人はいない。殺人事件の裏にも人間の深い悲哀が隠されていて、心に響く作品です。

Q これまでの人生で思い出に残るプレゼントは？

ずっと昔、学生のときにバレンタインデーにチョココレートをもらったのですが、ノートを買ってあげたお礼だと思っただけ、そのことに気づかなかった（笑）。家に帰って開いたらチョココレートが入っていて、「なんでチョココレート？ お菓子なんて子どもじゃあるまいし」と。当時、恥ずかしいことにバレンタインデーというものをほとんど意識していかなかったんですよ。申し訳ないことをしてしまったなと思っっています。チョコは美味しかったです。

Q もし生まれ変わったら何の職業に就きたいですか？

父がお寺の住職で中学校の先生をやっていたから、自分も先生になりたいと思いました。生まれ変わっても、やっぱり学校の先生をやりたいですね。

Q 一度だけ過去に戻れるとしたらどの場面に？

中学の頃、陸上で長距離を走っていましたから、今のまま当時に戻りたいですね。うちの陸上競技部で練習方法を学んだから、このまま中学生に戻れば絶対に勝てるはず（笑）。

Q キャンパスで一番のお気に入りの場所は？

やはり耕雲館（禅文化歴史博物館）ですね。心安らぐ場所です。学生の頃は図書館でしたね。

Q 駒澤大学の一番の良さを教えてください。

人と人の結びつきが強いところです。OBも含めた絆の強さは、これからも大切にしていきたいと思っています。また、仏教・禅の文化、日本の文化がしっかりと詰まっているところですね。



1913年

駒沢移転当初の駒沢キャンパス。建物は左から図書館・大講堂・教室。



▲駒沢ゴルフ場から見た移転当初の駒沢キャンパス。中央にはゴルフを楽しむプレイヤーの姿も。



▲駒沢ゴルフ場はのちに緑豊かな駒沢オリンピック公園に。学生にとっても憩いの場所。

駒沢移転100年 それぞれの「昔と今」

1万坪超の新校地に移転 新たな一歩を踏み出した

1913年(大正2年)に荏原郡駒澤村に移転。1月26日には仮開校式が行われ、翌日から授業が始まった。新校地の広さはそれまでの日ヶ窪校地の約3倍の広さで1万340坪にのぼるもの。旧校地からは大講堂と図書館、教室が移築され、それ以外はすべて新築された。新校舎の落成式は同年11月12日に実施。駒沢の地での新たなスタートとなった。

駒沢移転100年

メッセージ

未来に繋げる道標

1913年、駒澤大学は麻布日ヶ窪現在の六本木から現在の駒沢(旧東京府荏原郡駒澤村)の地に移転。当時、曹洞宗大学と称した歴史に、新たな1ページを記すことになった。あれから100年。長い歳月のなかで、大学も時の移り変わりに応じて変化を重ねてきた。キャンパスの変遷や、受け継がれる人の想い……。未来に繋げるメッセージとして、「駒沢移転100年」を記す。

懐かしの

駒大メモリアルFILE

駒沢キャンパスプレイバック!



▲移転当初の大講堂。

▶旧1・2号館



◀旧講堂と噴水



▲昭和44年頃の駒沢交差点の様子。「駒沢に駅をつくらう」の看板が。このあと、いまの「駒沢大学」駅が誕生した。

▶昭和19年頃、測量実習風景。



▶昭和4年頃、グラウンドで行われていた軍事教練の様子。



現在の禅文化歴史博物館

▶昭和26年6月に刊行された絵はがき。



▶現在の測量実習風景。今も昔も変わらず行われている。



禅文化歴史博物館(耕雲館)

“禅博が見た” 駒沢移転100年

大学のシンボルの1つである「禅文化歴史博物館」。1928年(昭和3年)に菅原榮蔵氏の設計で図書館として建設されたのが最初である。1973年(昭和48年)に現図書館が完成したあとは、「耕雲館」と命名。11年前から禅文化を伝える博物館として広く公開されている。駒沢移転後100年の多くは、常に「耕雲館(禅博)」とともにあった。

▶昭和44年の国道246号線「駒沢交差点」玉電が走っていた。
〔世田谷区の昭和より/撮影・大塚勝利 (大塚彫玉電と駒士の歴史館)〕



駒沢交差点



キャンパス内

▲昭和12年の駒沢キャンパス。耕雲館(現・禅文化歴史博物館)屋上から撮影したもの。



◀現在の駒沢交差点。交通量が増え、国道の上に首都高が通ったことで風景は大きく変化した。大学入り口の看板は今も健在。



◀ほぼ同じアングルで撮った現在の駒沢キャンパス。70年以上を経て周囲も様変わりした。

2013年

開校以来の伝統を大事に 7学部の総合大学に発展

駒沢移転から100年を経て、1万6千人の学生が7つの学部と8つの大学院研究科で学ぶ総合大学に発展を遂げた駒澤大学。仏教の教えと禅のこころを教育の基本理念に、各学部・学科で最先端の学問研究が実践されている。7つの学部すべてがひとつのキャンパスにあり、4年間の学生生活をともに送るのが本学の特徴。高い人格を形成していく教えと伝統は、移転100年が経った今も変わることがない。



100年を受け継ぐ先達からのメッセージ



▲昭和30年頃、駒澤大学で開催の児童教育部「日曜学校」での盆踊りの風景。地域の子どもたちをはじめ、近隣の住民を集めてキャンパスで盆踊りを楽しんでいた。踊りの上手な人は講師から表彰されていたとか。写真の後方に見えるのが当時の駒澤大学本館。

学びが日常での生活と一体になり、個々の人格を形成しながら社会に役立つ行動として繋がっていく。児童教育部の活動は、本学の理念である「行学一如」を体現するものだったようにも思います。前向きな思考で行動力を発揮できるのが駒澤学生の良さ。ぜひ未来の学生たちも長所を受け継いでほしいと思っています。

田中良昭 たなかりょうしやう

1933年生まれ、静岡県出身。仏教学部教授、同学部長・大学理事などを歴任。2003年に名誉教授となる。曹洞宗総合研究センター所長を経て2009年から2013年4月まで総長。

1953年当時の駒澤大学では、体育会の花形は硬式野球部、そして文化部の代表格が児童教育部でした。児童教育部の主な活動は、都内やその近県で開く「日曜学校」。部員それぞれが10数校の日曜学校に分かれて現地に赴き、地域の幼稚園児から小学6年生までの子どもたちに法話や童話、紙芝居や手遊びなどを教える活動を行っていました。夏には地方に出かけての伝道旅行も実施。各地の曹洞宗の寺院で子どもたちに絵断や人形劇を

見せ、夜はお寺の庭で一緒に盆踊りを楽しむ。そうした活動を夏休みの約40日間に行っていました。日曜学校や夏季伝道のために、私たちは講師を招いて自ら勉強を重ねました。子どもに教えるための踊りや童話、人形劇などを週に3回の講義で学んでいくのです。勉強を重ねて自信がつくと、最初は子どもの前に立つと緊張していた日曜学校での授業が、場にも慣れて楽しくなっていくものです。子どもたちも喜び、自身の勉強にもなる。当時はこの児童教育部での活動が、とてもやりがいのある、学生生活の中心になるものでしたね。

学びが日常での生活と一体になり、個々の人格を形成しながら社会に役立つ行動として繋がっていく。児童教育部の活動は、本学の理念である「行学一如」を体現するものだったようにも思います。前向きな思考で行動力を発揮できるのが駒澤学生の良さ。ぜひ未来の学生たちも長所を受け継いでほしいと思っています。



●1957年卒業のOB
思い出深い児童教育部での活動。多くの学びが詰まった毎日でした
田中良昭
 学校法人駒澤大学前総長（仏教学部仏教学科卒業）



●1969年卒業のOB
最後の箱根で浮かんだ仲間の顔。駅伝で培った絆が私の財産です
伊達勝康
 陸上競技部OB会会長（経済学部経済学科卒業）

私が入部した1965年当時は、陸上競技部はまだ同好会で学内でも全く注目されない存在でした。私たちが1年生のときに初めて箱根駅伝の予選会に出たのですが、長距離の選手も少なく、短距離や投てきの選手も入って出場しました。その頃から本選に出たいと考え、次第にハードな練習を重ねるようになりました。そして2年生のときに、予選会を突破して第43回箱根駅伝への初出場が決定。創部3年目での歴史的一歩でしたが、喜びというより、何だか信じられない気持ちのほうが大きかったことを覚えていています。

思い出深いのは、最後の箱根となった1969年。キャプテンとして最終10区を任せられたのですが、突然腹痛に見舞われて大失速したんです。ふらふらになりながら、でも途中でやめるわけにはいけません。歯をくいしばって何とかゴールしました。辛いときに浮かんできたのは他のメンバーの顔。悔しい大会でしたが、駅伝のもつ力を感じた場面でもありましたね。

OBと現役との固い絆でしよう。さまざまなかサポートを行いながらも、OBが優しく見守るのも良いところですね。これからの学生には、伝統を重圧として感じることもなく走ってほしい。ガムシヤラに自分のもつ力をフルに発揮してほしいと思っています。

伊達勝康 だてかつやす

1945年生まれ。駒澤大学が初めて箱根駅伝に出場したときのメンバー。4年次にはキャプテンも務める。現在、同部OB会会長。



▲1967年の第43回箱根駅伝に初出場を果たした駒澤大学。写真は7区を走った伊達選手（ゼッケン7）が8区を走る井上貞夫選手にタスキを渡した場面。この大会で駒澤大学は往路13位・復路14位の総合13位（出場15校）。伊達さんは区間13位の成績だった。

駒沢の地に移転して100年。その間で、歴史を受け継ぎ後輩たちに思いを託していった多くのOBたち…。
100年をそれぞれの時代に区切り、各世代を代表する卒業生の皆さんに、思い出の写真とともに話を聞いた。

入学式の後、サークル勧誘されたのが應援指導部ブルーベガサスでした。パートは、チアリーダー。小さなケガや傷は日常茶飯事でしたが、無我夢中で駒沢公園で練習し、東都大学リーグ戦で奮闘する硬式野球部を神宮球場で多くの駒大生とともに応援していました。往復4時間かけて通学し、授業もしっかり受講していたので、ドップリと駒澤大学での生活に浸っていた気がします。

大学へは、ほぼ毎日通学。携帯電話のないアナログな時代でしたから、大学へ到着後、メンバー全員が中庭にあるサークルごとのテーブル、通称「出店」へ直行し、授業時間以外にもそこで活動の確認をしたり、語り合ったり。「お互いの顔が見える」とても貴重な時間、場所でした。卒業後、サークル仲間たちと再会する

▶1990年代の東都大学野球リーグ。当時、多くの学生や同窓生が神宮球場へ応援に駆けつけていた。お揃いのメガホンを片手に応援する姿は、現在にも引き継がれている。



西尾久美子 にしおくみこ
1969年生まれ。ブルーベガサスでは、チアリーダー長も務めた。現在、NTTコムウェア・ピリングソリューション(株)に勤務。仕事と育児の両立に奮闘中。



と何年経っていても、一瞬でタイムスリップして学生時代のように接することができるのは、サークルの人間関係がいかに濃密だったかということでしょうね。
法学部の授業は、難解な講義もありましたが、興味深く受講しました。現在、契約書などに関わる業務が多く、リーガルマインドが活かされています。今後、子育てが一段落したら、大学や大学院で学び直したいと思っています。

デジタル化された世の中だからこそ、人脈を築くことは、とても大切なことです。やりたいと思ったことを学生時代に多く経験し、たくさんの人との繋がりをもって社会に飛び立っているのは、駒澤大学のすばらしところだと思っています。



●1992年卒業のOB
キャンパスで育まれた大切な絆。会うとあの頃の笑顔に戻ります
西尾久美子
應援指導部ブルーベガサスOG(法学部法律学科卒業)



林田太郎 はやしだ たろう
1990年生まれ。ボクシング部で全日本選手権ライトフライ級に3度優勝、世界選手権代表、五輪候補選手にも選出。現在、㈱ビル代行に勤務しながら、ボクシング部コーチとして後輩の指導に携わる。

▲大学2年次に世界選手権(ミラノ)に日本代表として出場
▲2010年度、(財)日本ボクシングコミッションの年間優秀選手表彰アマチュアの部で最優秀賞を受賞。本学OB清水聡選手(現自衛隊体育学校・ロンドン五輪銅メダリスト)も技能賞を受賞した。

習志野高時代にインターハイ準優勝、国体で優勝を経験しましたが、実は大学進学後もボクシングを続けるかどうか迷っていたんです。1部常連の強豪校からも誘いをいただいていたのですが、精神的に強くなれない自分がいて、続ける自信がなかったのです。駒澤大学は当時リーグ2部。「2部ながらも雰囲気良く、1部にはないものがある」と感じ進学したのです。結果的に、その選択が自分の人生には大きなプラスになりました。高校時代は名門で周囲も強い選手ばかりで引っぱり張れることが多かったのが、駒澤では自分が率先してやらないといけない。そんな責任感が芽生えたのです。もともと必要とされる燃える性格だけに、一気にモチベーションが上がって、練習への取り組み姿勢もどんどん積極的になっていきましたね。

大学時代は全日本選手権(ライトフライ級)で3度の優勝。2年の夏には日本代表としてミラノでの世界選手権にも出場できました。一方で、駒大のボクシング部では、勝つことがすべてではなく、人としてどうあるべきかを教えられました。自分には特別だという自信は、アスリートとしては必要でも、人としてはそうではない。多くの人に支えられて競技ができていないことを忘れてはいけないという教えました。
いまは母校のコーチをしながら、社会人大会への挑戦に向けてトレーニングを続けています。(㈱ビル代行に就職して、職場の上司や先輩の皆さんに助けってもらいながら練習に取り組み毎日です。周りの人々の支えがあつてこそ、ボクシングができる。大学時代に教わったことを忘れずにこれからも成長し続けたいと思います。



●2012年卒業のOB
周囲の支えがあるから競技ができる。当時の教えを今も胸に刻んでいます
林田太郎
駒澤大学ボクシング部コーチ(経済学部経済学科卒業)

本学が100年を記念して、
「駒沢大遷移」

駒沢大の歴史を振り返る

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

駒沢大の歴史は、明治の東洋文芸研究の歴史である。

〜未来に繋
現役学生100人
ずっと
あなたの
メッセージに

希切至に満ち溢れている
大学です

法律学科2年 眞井優太郎

駒沢マニアは、永遠に不滅です。

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

文学部国文学科3年 森下和貴

駒沢オリビエ公園が近くて
よく運動できるところが
大好きなところ！

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

文学部国文学科2年 斎藤史

※ 出版(でいせ) - 駒沢キャンパス(の中間)にあるサークルごとのテーマ。 ※ /は(は) - スマイルメニューが豊富な喫茶コーナー ※ 神楽(ばんば) - 神文化歴史博物館の期間。 ※ 神楽(ばんば) - 神楽の期間。

今そこにある、
人の思いや生きざまを、
写真と文章で表現していきたい。

塩沢 槇 執筆家・写真家



旅行に出かけて人を撮る面白さに魅せられた

子どもの頃から本が好きで、中学・高校の頃には写真にも少し興味がありました。年に数回程度ですが、一眼レフをもって写真を撮りに出かけていて、高校の修学旅行で撮った風景写真を友達のみんなが「欲しい!」と気に入ってくれて、嬉しく感じたことがあります。撮る、ということ

に二層の楽しさが生まれるようになりましたね。

私は文章を書くことも好きだったので、大学は写真学科に進むか、それとも国文学科に行くか迷いました。ただその頃は将来写真をずっと好きでい続ける自信が今のようにはありませんでしたから、国文学科を選択し駒澤大学に進学したのです。大学では当然のように写真部に入門。まず暗室作業を覚えたいと思っていまし

た。写真というものの奥深さに触れながら、夜遅くまでこもって焼いていたものです。そこで先輩に撮影の基礎を教わりましたし、新宿や青山、高円寺で写真部の個展を開催するなど、楽しい思い出がたくさんあります。

写真に二層のめり込んでいったのは、大学2年のときから。アルバイトで貯めたお金で、カメラを片手にフィルムが詰まったバックバックをかつての撮影旅行を始めたのです。旅行に出かけて、人を撮ることの面白さに魅せられていきました。人を撮った写真には、その距離感が正直に表れます。仲良くなれば、いい顔の写真がとれるし、そうでなければ何の変哲もない写真にしかありません。撮影の技術そのものより、人とのコミュニケーションの度合いによって表現できるものが違ってくる奥深さに面白さを感じていったんです。

私は子どもの頃から人見知りでもともと人付き合いが下手でしたが、人に対しての興味は昔からもついていた。そして人を取材したいという思いから、日々の生活を通して人見知りを少しずつなくしていったのです。やがて、自分が関わってきた人の思いや生きざまを、写真と文章で表現していきたいと思うようになりましたね。大学を卒業する頃には、それを仕事にしていこうという気持ちです。固まっていたかを明確に決めることができたのは、見守ってくれる恩師の存在、そして自分の



▲人物を文章と写真で描いた著書を数多く発表。

やりたいことをのびのびとできる環境があったことがとても大きかったと思います。駒澤大学という場所で、素地をしっかりと作ることができたこと感謝しています。

今も駒沢の街には数年に一度くらい足を運ぶことがあります。キャンパスに入るにはちよつと遠慮があるから、隣の公園で過ごす

ことが多いです(笑)。

大学のそばに行く、今も懐かしさが募りますね。自分が形成された場所の一つという感覚があるから、きつとそこに行きたくなるんだと思います。

大学時代という時間は、なりたいた自分になるために、足りないところを作り上げていく絶好の期間です。将来の自分を思い描いて、何が自分に不足しているのかをめいっばい考えたい。どんな小さなことでもいいから、できるものから取り組んでいくことだと思います。駒澤大学のキャンパスで始まった私のそうした作業は、今も自分の中でずっと続いていますね。



塩沢 槇
SHIOZAWA MAKI

2001年3月文学部国文学科卒業。大学在学中はロンドンへの語学留学も経験。その後、フォトグラファーとしてドキュメンタリーガイドブックの撮影などで活躍。執筆業も開始し、現在は写真と人物取材をテーマにした多くの出版物を発表している。

駒澤大学で過ごした4年間は、卒業生たちの人生にどのようなかたちで息づいていったのか。学生時代に培った思いを辿りながら、OB・OGたちのいまの活躍ぶりを追うインタビュー。各界で活躍する卒業生のなかから、お二人に話を聞いた。

ゼミ活動で培った実力が 今の私の礎となっています。

石元悠生 東京都知事政務担当特別秘書

都政改革への使命感 知事の情熱に触れ決断

東京都知事の特別秘書として、都政の政策全般に関する補佐が主な仕事です。私は現職に就く前は、産経新聞社会

部の編集委員として、ニューヨークのコロンビア大学で客員研究員を務めながら、主に政治学とジャーナリズムの研究に携わっていました。それが昨年12月、当選直後の猪瀬直樹都知事から「一緒に都政改革をやってくれないか」と打診を受

けたのです。直接お会いして話を伺うと、知事は、都政について「改革を前に進めたいからぜひ手伝ってほしい」と熱意たっぷりに語られました。私自身は新聞記者を辞めるつもりは全くありませんでしたし、やりたいことが山積していましたが、大変な葛藤がありました。最終的にお受けしたのは、やはり都政に対して感じた使命感からです。知事は情熱があり、言葉の一つひとつに真剣さと熱意を感じさせる人。最後はその思いの強さに打たれましたね。

入り、4年間の大学生活の中心がゼミ活動という毎日。でもそれが楽しく充実していましたね。駒澤大学での財産は、福岡先生を中心としたゼミの仲間たちであり、先輩や後輩たちの人との繋がりで、今回の特別秘書への転身を決める際にも、福岡先生に相談させていただきました。やはり、人生の節目の際には必ず恩師のもとを訪れます。卒業して20年以上経ちましたが、その関係性は決して変わりません。いつまでも恩師であり教え子。ずっと繋がっているものですね。



▲2020年夏季五輪招致に向けて「開催の意義を都民にしっかりと伝えていきたい」と話す石元氏。

新聞記者を志したきっかけは、大学時代のゼミでの福岡政行先生（当時法学部助教）の言葉でした。先生が「君は新聞記者に向いている。ぜひ目指しなさい」と。当時のゼミの授業内容は、現場を歩きながら各々の問題点を探り、それをレポートにまとめて発表するというものでした。通常のゼミのように週1回の集まりで終わるのではなく、次の発表までに多くの課題を与えられてグループでそれにあたる。授業は発表中心で、しっかりと準備していなければ決してこなせません。アメリカの大学が当たり前のよう実践する授業スタイルを福岡ゼミでは当時すでに

行っていたのです。1年次からサブゼミに

そしてOBが全国各地にいて、何かあると固い絆で二本に繋がる。OB同士が身近な距離感の中にいるのは、今も変わらない駒大の良さだと思いますね。



石元悠生
ISHIMOTO YUSEI

1991年3月法学部政治学科卒業。産経新聞に入社後、社会部記者となる。キャップとして都政取材で多くの実績を積み同編集委員に就任。その後米コロンビア大学の客員研究員としてニューヨークに赴任。2013年1月より現職に就任。



駒	大	O	B
師	弟	対	談

駒澤大学相撲部監督

舘岡儀秋

(1972年経済学部商学科卒業)



相撲だけでなく、一人の人間として
必要なことを教わった4年間でした

大相撲力士・松ヶ根部屋

松鳳山裕也

(2006年仏教学部仏教学科卒業)



土俵狭しと動き回る果敢な相撲で人気を博す松鳳山関。
駒澤大学OB初の三役入りに、今後の活躍がいつそう期待されている。
今回、4年間の苦楽を共にした恩師の舘岡監督と玉川キャンパスの土俵で再会。
懐かしのちゃんこを囲みながら、思い出を語り合った。

相撲の基本的な型を厳しく教えられた

—松風山関を初めて見たときの印象はいかがでしたか？

館岡 高校2年生の頃かな。大分県に選手がいるという話を聞いて、見ると相撲は下手くそで荒っぽいんだけど、スピードのあるいい動きをしていた。体はそれほど大きくはなかったけれど、「この先伸びるだろうな」という素質は感じられました。ここ一番にかける集中力、勝負に対する執着心や負けず嫌いなところなど、精神的な部分にも魅力を感じたように思います。

—高校時代から負けず嫌いでしたか？

松風山 そうですね。稽古場でもいつも番になりたいと思っていて、先輩に対しても「絶対に負けない」という気持ちで相撲をとっていました。高校時代は強い先輩ばかりでなかなか勝てませんが、それが良い稽古になったのだと思います。

—駒澤大学に入ったときの印象は？

館岡 力がありました。相撲の技術的なことはまだまだ未熟でした。高校では、型にはめるのではなく、荒削りでもいいから良いところを伸ばすという指導だったと思います。大学では、まず腰の構えから入っていくといった基本的な型を教えていきましてね。実は今も、調子の悪いときはその型が崩れている。悪いときはなかなか直らないね。

松風山 稽古に入る前の四股の踏み方やテッポウなど、基本的な動作や形については厳しく教わりました。

それと「まわしを取るときには親指を通せ」と口が酸っぱくなるくらいいわれましたね。親指を通して、横から攻めるような相撲を取れよ。

館岡 それができなくて来場所も苦労するよ(笑)。今も場所中にもいい相撲を取ったときには電話をするし、負けが混んで「もういいかげんにせよよ」と思うときも電話する。彼からはして来ないけど、私のほうから電話するね(笑)。

—大学時代の関取はどんな選手でしたか？

館岡 気が強くて土俵上での勢いはあるのだけど、それが裏目に出ることも多かった。土俵で緊張するタイプでもあったからね。明らかに勝てる相撲なのに、最後の詰めが甘くて結果として負けてしまう。それが、どうしてプロに行つてあんなに強

心臓になったのか不思議ですよ(笑)。逆転して勝つ相撲も多いし、土俵での表情を見ても、そんなに緊張している様子がないからね。

松風山 確かに昔は緊張して力を出せないこともよくありました。でもプロに入ったあとのある番で、リラククスすることの重要さに気づいたんです。それまで用意周到に準備運動も行って、ガチガチに気負つて土俵に立っていたのを、ある日ストレッチだけの準備で土俵に立った際に、とてもリラックスできて納得のいく相撲で勝つたんです



ね。それからは本番前は、できるだけリラックスするよう努めるようになりました。花道の奥で付き人を笑わせた(笑)。負けたら負けたで仕方ない、まず力を出し切る相撲を取ろうと思えるようになりましたね。

部員に時間割を出させて出席を厳しくチェック

—大学卒業を控えて、プロに進みたいと強く思っていましたか？

松風山 3年生の終わりに進路について考えて、「よしプロに行こう」と決めました。自分と対戦したことがある他大学の先輩たちが大相撲で活躍しているのを見て刺激にもなりましたね。監督に、「おまえ、進路どうすんだ？」と聞かれて、「自分、プロ行きます」と言つて言つてこく意外な顔されましたよ。

館岡 私は教え子に対して、プロになるからには引退するときに、協会に残れるだけの番付や実績を残せる力がないと行かせられないと思つています。その点彼は、おそらく関取になる力は十分にあると思つたし、このままケガなく頑張れば、そうした番付まで上がっていくだけの力はあると思つていました。ただ、やっぱり心配なんです。だから「必ずそこまでの地位に上つていけ。ダメなら相撲界から足を洗う覚悟を決めてやりなさい」という話はしましたね。

当然ながら、相撲をやめてからの人生のほうが長いんですから。

松風山 館岡監督は部員や学生を一人の人間として見てくれるから、余計に厳しいんです。学生時代は相撲のことだけではなく、一般の社会人としての厳しさを植え付けてくれました。ふつう大学では学校に来なくても、高校のように怒られたりしません。けれど監督の場合はとても厳しい。部員に時間割を出させて、授業の際には「行って来い！」といつも厳しくチェックしていました。

自分は駒澤大学でなかったら、今の人生はないと思います。監督に心身を強くしてもらつたし、相撲の基礎を教えてもらった。駒澤には愛着がとて強いですね。正月には箱根駅伝もとても相応に気になります。負けたら悔しいし「オレ、駒大好きなんだな」と思つてしまいますね。

—最後に、監督から激励の言葉をお願いします。

館岡 自分の体を大事にして、一番番を大切に、一生懸命自分の相撲を取り切つてほしいと思います。彼はファンの人たちになぜか人気あるんですよ、こんな顔で(笑)。だからこれからもお客さんを湧かせる激しい相撲で喜ばせてほしいですね。そのためには何をしなきゃいけないかは自分で行かなくてはなりませんから。

松風山 常に上位の人たちが嫌がるような相撲を取つていきたいと思つていますね。目標は40歳で幕内にいること。あいつの土俵を見ると気持ちがいいな、と言われるような相撲をできるだけ長く取り続けたいと思つています。

館岡儀秋 たておか よしあき

PROFILE

秋田県出身。鷹巣農林高(現・秋田北鷹高)から駒澤大学に進み、1971年に全国学生相撲選手権に優勝。第49代学生横綱となる。同年、全日本相撲選手権にも優勝し、アマチュア横綱のタイトルも獲得。1981年に駒澤大学相撲部監督に就任。(財)日本相撲連盟常務理事、国際相撲連盟常任理事などの要職を歴任している。駒澤大学総合教育研究部教授。



松風山裕也 しょうほうざん ゆうや

PROFILE

福岡県出身。本名は松谷裕也。相撲の強豪・大分県立宇佐産業科学高から駒澤大学に進学。1年次から団体戦のレギュラーを務め、国体準優勝などの実績を残して松ヶ根部屋に入門。2006年3月場所です初土俵。2010年5月場所です新十両に昇進。2012年11月場所です3大関を破つて10勝5敗の好成績を挙げ敢闘賞を受賞、小結に昇進するなど活躍を続けている。



法学部

大山礼子 教授

小さな改革の積み重ねこそ 社会を変える政治の力となる。

選挙や国会審議をはじめ、多くの課題が指摘される日本の政治制度。いま、政治が果たすべき本当の「改革」について考える。

政治制度の変革から 長く目を背けてきた日本

55年体制といわれた自民党の長期政権の中で、日本は政治制度の改革をほとんど行つてこなかった国といえます。憲法改正はもとより、多くの問題点がある国会法でさえ根本的な制度改革を行うことなく、いわば運用面でこまか

しながら推移してきました。

その後遺症というべきか、政治制度を変えていく思考や方法を、今の日本の政治家や政党は忘れてしまったようです。たとえば学生にとつても身近な問題の18歳からの選挙権も未だ実現していません。制度を変える、ということは今までやってこなかったから、そのためのトレーニングが経験則としてできていな



▲比較議会制度の視点から国会改革の問題を捉えなおし、いわゆる「イギリス型議院内閣制」を日本に取り入れることの是非を論じてきた大山教授。関連の著書も多い。今後はより広く議会制民主主義の課題を考察し、政党論などにも取り組みたいと考えている。

い。本来簡単なことも、すこく難しく思ってしまうのでしょうか。いまの日本の政治は、制度面からみても多くの問題点を抱えています。「改革」という言葉を好み、大なたをふるう必要性を唱える政治家は多くいますが、一方で実行性に疑問符がつくことも少なくありません。それよりも私は、地道で小さな改革の積み重ねこそ、世の中は大きく変わっていくと思つています。グレートリセットではなくリフォームこそが重要であるというのが私の考えです。

大風呂敷を広げた改革案を声高に主張する人ほど、実はすぐにでもできる小さな改革には関心を示さないことが多いのです。たとえば国会の通年会期制など、地方議会ですすでに実現しているような制度改革が、国政では一向に進まない。実効力のある小さな変化を実現し、その積み重ねがあつてこそ

大きな変革につながっていくのには、それをするだけでなく「改革」とばかり叫ぶ政治家の姿が目立ちます。そうした光景を目にすると、彼らは本当に制度を変える気があるのかと問いたいですね。

政治には、国の制度を変えていくことで社会が良くなる姿を国民に見せる義務があります。それが若い世代に夢を与えることにつながるのに、今の若者は政治によって世の中が変わる姿を見ないから、変化に対して臆病になつている。でも一人ひとりが声をあげれば、必ず世の中は変えられるのです。その主体となるべきバイタリティを、学生たちにはぜひもってもらいたいと思つています。



大山礼子 教授
専門は政治制度論。2003年より現職。政府の地方制度調査会委員なども歴任している。2013年4月より法学部長を務める。

グローバル・メディア・スタディーズ学部 アシュウェル・ティム 教授

積極的なコミュニケーションが 世界で通用する英語力を育てる。

これからのグローバル社会で活躍するための必須の条件が英語力。
日常の会話から始まる、実践的な英語を身に付けるために必要なものとは？

仲間とのディスカッションで 自らの理解力を養っていく

グローバルに通用する実践的な英語力とは、なにも特別な英語が必要ということではありません。簡単にいえば、普通の会話ができるようになることです。相手の会話でも、自然に自由に自分の思ったことを伝えられる。その相手が日本

人だけでなく、世界の誰とでも話ができるということです。

従来の日本人学生の多くは、こうしたオーラルコミュニケーションを苦手にしてきました。日本の学校教育においては、中学からの6年間の英語授業では「話す」ことに重きが置かれませんでした。大学に入ってから初めて外国人と英語を話す機会を得る学生も多い。だから最初はほとんどの学

What are Elicited Imitation tests?
Elicited imitation tests collect spoken performance on specific grammatical features which reveals learners' grammatical ability under different performance condition.

Look at the picture on the computer
Listen to a question about the picture
Answer the question
Repeat the question you hear

Test Movie Clips

▲アシュウェル教授の研究テーマのひとつである「誘出的模倣テスト」。英語における「聞く、答える、見る、話す」の4つのステップを繰り返しながら、出てくる間違いをチェックしていく。表れる間違いの箇所によって文法能力をはかっていくというテストの開発を行っている。多様なアプローチで個々の英語力を高める教育の実践につなげている。

生が緊張します。友達の前で英語を話すことにはプレッシャーも感じるでしょうが、そこで話す訓練を積んでいかなければ、実践的な英語力は身に付きません。私たちのオーラルコミュニケーションの授業では、学生がペアを作り、仲間の目の前で会話をしてもらいます。会話に間違いが生じればそこでストップし、その長さが成績に反映されます。そうした実践的なコミュニケーションで英語力を磨いていくのです。

コミュニケーション能力とは、自信と経験によって培われるもの。だからこそ誰にでも備わるものです。そしてオーラルコミュニケーションの中では、たとえば英語力自体が完ぺきではなくても、コミュニケーション能力が備わっていれば会話は十分に成り立ちます。

それを身に付けるためにも、私の授業では学生たちによる共同学習を重視しています。グループを組んで、長い間同じ仲間と難問にトライしていく。その



アシュウェル・ティム教授
専門は応用言語学。グローバル・メディア・スタディーズ学部の英語教育のリーダーとして活躍している。英語論文の書き方やプレゼンテーションの方法などを指導。

プロセスの中で、グループが進化してチームになっていきます。相手が学ぶことに対して自分も責任をもつということができるようになるのです。自分の提案内容について、友達同士でディスカッションを重ね、それによって自分の理解度も深まっていく。日本ではまだまだ新しい手法だと思えますね。

学生には、常に問題提起の気持ちを忘れず、積極的に自分の意見を発信してほしい。決して受け身になることなく、自分の考えを相手に伝える姿勢が、グローバルなコミュニケーション力を育てる基礎になることを忘れないでほしいですね。

未来に繋げる

いま、
わたしたちに
できること

長い年月は、多くの人とのたくさんの「絆」をつむいできました。
多くの皆さまに愛される大学になるよう続けていきたいと考えています。

■ 昭和信用金庫と「産学連携協定」締結

学生たちのアイデアで地域の活性化に期待

2012年6月8日、昭和信用金庫(本店:世田谷区)と「産学連携協力に関する協定書」を締結しました。駒澤大学、昭和信用金庫ともに初の産学連携協定の締結。人材育成や教育支援、中小企業支援に関する業務を相互に連携して実施することによって、主に世田谷地域の経済活性化を目的としています。本学学生のアイデアが、中小企業経営や商店街の地域ブランド創出につながることを期待し、積極的な活動を実施していきます。



▲本学深沢キャンパスで行われた調印式については、メディアにも取り上げられ、注目度の高さが伺える。

■ 「駒沢ふれあい広場 夏まつり」

地域密着の人気イベント。夏の風物詩として定着

毎年夏に開催される「駒沢ふれあい広場 夏まつり」。地域住民と学生、教職員、全国の同窓生が参加できる交流の「広場」として2002年に始まりました。メインイベントの盆踊りをはじめ、地元自治会や学生団体、同窓生らによる手作りの縁日(模擬店)、浴衣コンテストなどのイベントステージもあり、毎年約7,000人が来場。地域の夏の風物詩としてすっかり定着しています。昨年は、おととしに続いて「東日本大震災復興支援」をテーマに、移動式エンターテインメント一体型炊き出しキャラバン「いわて三陸復興食堂」などの復興支援関連団体が出店。岩手県大槌町などの仮設住宅でラーメン移動販売を行う「麺屋 兎」、募金活動や支援物資の調達・配送などを行う「大船渡復興支援団体 大新屋」、茨城県龍ヶ崎の「コロケキッチンカー」など、復興支援をテーマにした多くの店で賑わいました。

▶地元自治会などの手作り縁日他、東日本大震災復興支援関連団体による出店も、お祭りを盛り上げている。



▲駒沢周辺地域の夏の風物詩として定着してきた夏まつり。毎年、多くの浴衣姿の子どもの笑顔がふれるお祭りとなっている。

■ 駒沢ふれあい寄席「駒沢落語会」

昨年2年ぶりに開催されたイベント

2010年に一度は最終公演を迎えた「駒沢落語会」が、昨年12月8日に開校130周年記念事業として再び開催されました。2年ぶりに駒沢キャンパス・記念講堂で行われた落語会は、開場の前から長蛇の列ができ、1階座席は満員の盛況ぶり。地域の方々約800人が訪れ、前回までと変わらない盛り上がりにも包まれました。駒澤大学出身の桂竹丸さん、神田愛山さん、桂文雀さんの落語や講談、大瀬ゆめじ・うたじさんの漫才など多彩な演者が高座で熱演しました。

この「駒沢落語会」は、2001年度に「地域の絆」をテーマとして開始したもので、2010年度まで行われ、地域に愛されてきた行事。今回の再演は、以前出演した演者が多数参加し、訪れた人たちは、懐かしい寄席のひとつときを楽しんでいました。



▲笑いあり、涙ありの「駒沢落語会」。この会の開催を楽しみにしているという声も多い。

社会との連携で

駒沢移転100年となる2013年。地域とともに歩んできた駒沢の地で重ねてきた本学の歴史。深沢・玉川キャンパスも含め、地域の

■ 禅文化歴史博物館「禅博セミナー」

禅の歴史と文化を分かりやすく伝える

駒澤大学の禅文化歴史博物館では、禅の歴史と文化を分かりやすく伝えることを目的にした「禅博セミナー」を開催しています。

昨年5月の第27回禅博セミナーでは、「禅とスティーブ・ジョブズ」をテーマに、本学仏教学部教授による講演を開催。MacやiPhone、iPadなど数々のヒット商品を世に送り出した米国・アップル社の創業者にして、世界で最も有名な実業家の1人であったスティーブ・ジョブズ氏と禅の関わりについて紹介。経営者としての彼が終生、曹洞宗の僧侶・乙川弘文師に師事し、「禅」を学んでいた事実をもとにセミナーを行いました。

ジョブズ氏が師事した乙川弘文師は、駒澤大学、京都大学大学院修了後、永平寺で3年に及ぶ修行の後、布教のため渡米。ジョブズ氏の結婚式を司るなど生涯に渡り交流を持ち、ジョブズ氏の「心の師」とも呼ばれています。セミナーでは、ジョブズ氏の遺した数々の言葉を禅の立場から読み解いていき、さらに、同氏が禅と出会うきっかけとなったアメリカでの「ZEN」の布教についても紹介しました。

今後も注目度の高いテーマに沿った意義のあるセミナーを開催していきます。



▲「禅とスティーブ・ジョブズ」をテーマに行った禅博セミナーは、200人以上が参加



▶「江戸・明治時代の印刷技術版による刷りの実演と体験」のセミナーでは、アダチ版画研究所のご協力により実演と参加者全員が実際に木版刷りに挑戦した。

■ 無料法律相談・講演会「市民ロースクール」

法科大学院生が実務も兼ねて社会貢献

法科大学院では、毎年春と秋の2回、第一東京弁護士会の公設事務所である渋谷シビック法律事務所の協力のもと、無料法律相談を開催しています。相続や借地、株式など多種多様な案件の相談があり、立ち会う法科大学院生の学びにも大いに役立っています。

30分間の相談が終了後、担当の弁護士と立ち会った法科大学院生との間でさらに約30分ほど当該案件の法律問題を復習・討議します。こうした、実務上のニーズに応えながら、学びを進めることができるのが、法科大学院の存在意義のひとつといえます。

さらに、昨年の11月には「市民ロースクール」として講演会を開催。無料法律相談とともに地域の方にご参加いただける内容で今後も実施していきます。



▲第1回市民ロースクールでは、「知っておきたい相続のこと」と題して開催。

■ 玉川キャンパスクリーン活動

体育会本部が日頃の感謝を込めて清掃活動

体育会本部が中心となって、毎月末に「玉川校舎周辺清掃」活動を行っています。玉川キャンパスは体育会所属団体の練習拠点ともなっています。クリーン活動といっても、キャンパス内だけではなく、キャンパス周辺の地域もきれいに清掃します。この活動では、多摩川近くの通りの道沿いを中心に、丹念にゴミ拾い。毎回、いくつものゴミ袋がいっぱいになるほどで、玉川キャンパスだけでなく、駒沢や深沢も含め、地域の清掃活動を今後も継続して行っています。



▲多摩川に隣接する玉川キャンパス。堤防付近もきれいに清掃。

社会に飛び立つ駒大生 ~駒澤大学の就職状況レポート~

就職状況 2013年4月1日現在(9月卒業除く)

※未登録者は除く

	仏教学部		文学部						経済学部			法学部		経営学部		医療健康科学部	グローバル・メディア・スタディーズ学部	計	
	禅	仏教	国文	英米文	地理	歴史	社会	心理	経	商	現応	法A	法B	政	経営				市場戦略
就職希望者数*	49	76	85	107	95	134	129	48	299	227	99	235	83	187	287	169	40	219	2,568
就職決定者数	44	72	77	98	83	117	126	43	267	202	93	206	76	176	269	157	40	207	2,353
進学者数 (大学院・大学・留学)	2	6	2	4	9	12	1	6	1	10	4	14	1	2	6	4	9	15	108
各種学校進学 (専門学校等)	5	4	5	4	2	6	0	2	7	2	0	7	0	6	5	3	0	4	62
各種試験受験準備	1	3	6	3	7	20	4	5	21	7	6	31	5	12	13	3	1	7	155

主な就職先(2013年3月卒業生)

仏教学部

禅学科

学校法人明德義塾
日本郵政グループ
防衛省陸上自衛隊
湖南市役所(教育)
サイイ引越センター
鳥忠
本山安居

仏教学科

臨海セミナー
ケア21
北都銀行
明治安田生命保険相互会社
警視庁
神奈川県警察本部
クワック・アンド・リバー社
オークラ住宅
ハイデイ日高
ジェイアール東海バスセンター
サミット
横浜トヨペット
本山安居

文学部

国文学科

日本テレビワーク24
教員
日本郵政グループ
日本私立学校振興・共済事業団
エイチ・アイ・エス
新日本法規出版
七十七銀行
東和銀行
SMBCフレンド証券
国家公務員
地方公務員(警察)
酒井薬品
サイイ引越センター
佐川急便
くまの書店グループ
ヨドバシカメラ
アートネイチャー
イオンリテール
小田急百貨店

英米文学科

教員
大学職員
クラブツーリズム
JTB東北
エイチ・アイ・エス
レナウン
東京都信用農業協同組合連合会
SMBC日興証券
丸三証券
西武信用金庫
足立成和信用金庫
東京シティ信用金庫
明治安田生命保険相互会社
地方公務員(行政・警察)
JKホールディングス
住友不動産販売
全日本空輸
ANA関西空港
文教堂
タリーズコーヒー・ジャパン
AOKI(AOKI-ORIHICA)
三越伊勢丹

地理学科

アパホテル
教員
大学職員
日本郵政グループ
近畿日本ツーリスト
京王観光
阪急交通社
タカラスタンダード
オーハンデクニカ
みずほ銀行
イオンクレジットサービス
西武信用金庫
上越信用金庫
三井生命保険
国家公務員
地方公務員(行政・消防)
JKホールディングス
伊藤忠食品
小田急電鉄
東日本旅客鉄道(JR東日本)
東京メトロ
小田急商事

歴史学科

インテリジェンス
教員
日本郵政グループ
ベネッセスタイルケア
THK
高田製菓
協能信用金庫
静岡信用金庫
三井生命保険
アメリカンファミリー生命保険会社
レオパレス21
国家公務員
地方公務員(行政・警察)
日本郵政グループ
東京メトロ
島村楽器
東急ストア
日本ベップコーラ販売
ノジマ
鳥忠
NECモバイル
イトーヨーカ堂
モゴロ・西武

社会学科(社会学専攻)

ハイランドリゾート
ABCCookingStudio
東京総合警備保障
医療施設
福祉施設
全国健康保険協会
小田急トラベル
東洋美術印刷
伊藤園
三菱東京UFJ銀行
坂本銀行
飯能信用金庫
明治安田生命保険相互会社
国家公務員
日立ソリューションズ
東急ハンズ
ロッテリア(ロッテグループ)
エイチ・アイ・エス
セブンイレブン・ジャパン
社会学科(社会福祉学専攻)
大学職員
アイデム

医療機関多数

ベネッセスタイルケア
オリックス・リビング
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
福祉施設多数
トーカー
フランスベッド
ワコール
富士通
セラサ川崎農業協同組合
京業銀行
野村證券
大賀建設
木下工務店(木下グループ)
地方公務員(行政)
マツダパワート(及子(マツダ)グループ)
ユナイテッドアローズ
ファーストリテイリング

心理学科

国家公務員
日本入試センター
ベネッセスタイルケア
亀田製菓
三井住友銀行
地方公務員(警察・消防)
東京消防庁
東京メトロ
東日本旅客鉄道(JR東日本)
モスフードサービス店

経済学部

経済学科

東京ドーム
東京メトロ
青山商事
地方公務員(行政・警察・消防)
高等学校教員
高見
エイチ・アイ・エス
ヤマハ
コニカミノルタグループ
キッセイ薬品工業
スズキ
富士通
ゆうちょ銀行(日本郵政グループ)
三井住友銀行
東京都市銀行
三菱東京UFJ銀行
みずほ銀行
野村證券
西武信用金庫
日本生命
中央労働金庫
大和ハウス工業
国家公務員
地方公務員(行政・警察・消防)
大塚商会
加賀電子
エヌ・ティ・ティ・データ
東京ガス
日本通運
東京メトロ
ローソン
ファミリーマート
小田急百貨店

商学科

学校法人駒澤大学
日本コブ・共済生活協同組合連合会
エイチ・アイ・エス
JTB首都圏
THK
ヤクルト本社
森永製菓
キーエンス

みずほ銀行

三菱東京UFJ銀行
三井住友銀行
オリエントコーポレーション
野村證券
横浜信用金庫
城南信用金庫
日本生命
積水ハウス
大和ハウス工業
地方公務員(行政・警察・消防)
日本アクセス
イッセイミヤケ
オンワード樺山
ソフトバンクグループ
日本郵政グループ
東日本旅客鉄道(JR東日本)
ローソン
LIXILピバ
ユナイテッドアローズ

現代応用経済学科

ミキハウス
オリエンタルランド
国立大学法人東京工業大学
学校法人駒澤大学 駒澤大学高等学校
東リ
YKKAP
三井住友銀行
常陽銀行
キングレコード
ソフトバンクグループ
西日本電信電話(NTT西日本)
東京メトロ
青山商事
地方公務員(行政・警察・消防)
高等学校教員

法学部

法文学科フレックスA

学校法人村田学園 村田女子高等学校
習志野市教育委員会
日本郵政グループ
セコム
独立行政法人産業技術総合研究所
CLS比日谷東京法律事務所
JTB関東
エイチ・アイ・エス
小野薬品工業
日本信号
三菱東京UFJ銀行
みずほ銀行
三菱東京UFJ銀行
全国信用協同組合連合会
国家公務員
地方公務員(行政・警察・消防)
ワールド
佐川急便
東京メトロ
東日本旅客鉄道(JR東日本)
ニトリ

法文学科フレックスB

セルリアンタワー東急ホテル
名古屋市教育委員会
ステップ法律事務所
地方公務員(行政・警察・消防)
高等学校教員・中学校教員
日本年金機構
小田急電鉄
政治学科
学校法人駒澤大学 駒澤大学高等学校

千葉県教育委員会

資生堂
本田技研工業
ゆうちょ銀行(日本郵政グループ)
三井住友銀行
みずほフィナンシャルグループ
日本生命
国家公務員
地方公務員(行政・警察・消防)
高等学校教員・中学校教員
横浜冷凍
東日本旅客鉄道(JR東日本)
ファミリーマート
ポイント

経営学部

経営学科

ANAエアポートサービス
京王プラザホテル
学校法人日本医科大学
日本郵政グループ
郵便局
エン・ジャパン
高見
エイチ・アイ・エス
大鵬薬品工業
久光製薬 東京本社
ゼリア新薬工業
中外製薬
沖電気工業
みずほ銀行
千葉銀行
三菱東京UFJ銀行
東京都市銀行
第四銀行
三井住友銀行
横浜信用金庫
西武信用金庫
日本生命
明治安田生命保険相互会社
積水ハウス
国家公務員
地方公務員(行政・警察・消防)
花王カスタマーマーケティング
東海濃粉
全日本空輸
静岡鉄道
東海旅客鉄道(JR東海)
小田急電鉄
セブンイレブン・ジャパン
ローソン
ユニクロ

市場戦略学科

ANAエアポートサービス
よしもとクリエイティブ・エージェンシー
近畿日本ツーリスト
ツムラ
タカラスタンダード
LIXIL
沖電気工業
伊藤ハム
日本郵政(日本郵政グループ)
大和証券
全国市町村職員共済組合連合会
住友林業
国家公務員
地方公務員(行政・警察)
丸紅食料
北海道旅客鉄道(JR北海道)
東京メトロ
セブンイレブン・ジャパン

青山商事

医療健康科学部

診療放射線技術科学科
学校法人昭和大学
医療法人社団圭春会小塚総合病院
医療法人社団和会池上総合病院
君津中央病院企業団
長崎市立市民病院
独立行政法人労働者健康福祉機構東京労災病院
国家公務員共済組合連合会九段病院
財団法人日産厚生会玉川病院
静岡県立病院機構
社会医療法人社団三思会東名厚木病院
がん研有明病院
聖マリアンナ医科大学病院
医療法人社団啓明会村上記念病院
札幌スポーツクリニック
学校法人昭和大学和会和会附属病院グループ
社会福祉法人康和会久我山病院
社会医療法人財団大和会東大和病院
埼玉厚生連豊田総合病院(埼玉厚生連)
医療法人厚生会斎藤労働病院
日本赤十字社武蔵野赤十字病院
東京都病院経営本部
医療法人健診会東京メディカルクリニック
大崎市立大崎市民病院
学校法人順天堂順天堂大学医学部
村岡順天堂医院
北海道厚生連釧路総合総合会(北海道厚生連)
医療法人社団三栄会中央民間病院
社会医療法人財団石心会鉄山病院
青森県立中央病院
医療法人幕内会山王台病院
防衛医科大学校防衛医科大学校病院
国保松戸市立病院
横浜信用金庫
医療法人共済組合連合会東京共済病院
心とからだの元氣プラザ
茨城県農業協同組合連合会(JA茨城県連)
ケインス

グローバル・メディア・スタディーズ学部

グローバル・メディア学科

パソナ
阪急トラベルサポート
郵便局
ばど
エイチ・アイ・エス
コスメテックスローランド
ルック
日本電産
三井住友カード
野村證券
三菱UFJモルガン・スタンレー証券
住友生命保険相互会社
大和ハウス工業
東京セキスイハイム
積水ハウス
千葉県警察本部
小山市役所
エステローダー株式会社
大塚商会
コナミデジタルエンタテインメント
エアアジア・ジャパン
日本航空
日比谷花壇
ユナイテッドアローズ
三越伊勢丹

大学時代のフィールドワークが出版編集の現場で生きました

株式会社昭文社 制作本部 制作部 商品検査課
井川勝也さん(文学部 地理学科卒)

毎年多くの卒業生が社会に旅立つ駒澤大学。厳しさを増す企業社会の中で、大学時代の学びはどのように息づくのか。地図、ガイドブックで知られる大手出版社で活躍する、井川さんに話を聞いた。



地理学科での知識が編集の現場で生きた

—現在の仕事の内容を教えてください。

井川 ● 地図やガイドブックなど出版物の校正を担当しています。商品ができあがっていく途中段階での原稿校正、そして校了に向けた最終段階でのチェックです。たとえばマップページの情報一つひとつの整合性や誤植がないかなどを丹念に確認していきます。

—出版社に就職された理由は？

井川 ● 地理学科で学んでいたことから、地理を活かせる仕事をしたいと思ったこと。そして旅行も好きだったので、ガイドブックなどの出版物の制作に携わりたいと思っていました。

—就職後に学生時代の学びが生きた部分はある点がありますか？

井川 ● 地理学科という特殊性もあって、専門用語に慣れていたことが入社後もスムーズに仕事ができることに繋がりました。編集部配属されて「山と高原地図」の制作に携わりましたが、違和感なく仕事になじんでいましたね。

—入社以来、仕事のやりがいはどこに感じてきましたか？

井川 ● 編集担当の時はお客様からの電話などがダイレクトにくる部署でしたので、反響をダイレクトに聞ける部分はやりがいを感じました。おしかりを受けることもありましたが、反面お褒めの電話や激励の手紙をいただくこともあって、そのときはうれしかったですね。今は表には出ない仕事の担当部署なので、お客様のために間違い

やミスを事前に防いでいくことがやりがいになっています。

学生時代に感じた旅行の楽しさが土台に

—大学時代の思い出を教えてください。

井川 ● 地理学科での野外巡検(フィールドワーク)が印象に残っています。2

3年次は福岡・柳川へ指導教授と20人程の学生で調査に向かいました。まちの成り立ちや地理的な考察など、幅広いテーマで研究を重ね報告書やレポートを作成しました。また、時間を見つながら、自分で一人旅を重ねたことは思い出です。

春休みや夏休みにアルバイトをしながら日本全国を旅してまわり、四国4県以外はすべて足を運びました。その土地に出かけ、風土や方言などに接しながら、地元の方々との交流をもつことができたことが印象深かったですね。旅行の楽しさは、違う土地の人の暮らしやまちの魅力に触れること。そこに喜びを感じられたことは、社会に出てからの仕事にも生きていけると感じます。

—大学時代に得られたことは大きかったですね。

井川 ● 編集担当のときに、地図をできるだけわかりやすく表現したいという読者目線に立つ



▲入念な校正作業が信頼ある出版物を作りだす。

て作ることができたのは、授業で、地形図や地図をもとに学ぶことが多かった経験が生きているのかもしれない。そして学生時代の旅行の経験があったからこそ、ガイドブックを自分でも作って、よりわかりやすい情報を読者に伝えていきたいという思いに繋がりました。

—就職活動を見据える学生たちへのメッセージをお願いします。

井川 ● とにかく迷ってほしいな、ということですね。もちろん早くから自分の確固たる進路があればそれに越したことはありませんが、迷って決めて、また迷いが生じて…という繰り返しを経ながら、自分に最も合った進路を決めていってほしいと思います。迷っていても決して恥じやない。紆余曲折を経験することが、やがて自分の納得できる進路を見つめることに繋がります。そう考えながら進んでほしいと思いますね。



株式会社 昭文社

本社：東京都千代田区麹町3-1
<http://www.mapple.co.jp/>

SIMAPを中核とし、それを活用した地図・雑誌・ガイドブックの企画・制作及び出版販売を行う「出版事業」、ならびにデジタルデータベースの企画・制作・販売及びそれらを活用したサービスを提供する「電子事業」を展開している。



〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1
TEL.03-3418-9828 FAX.03-3418-9017
<http://www.komazawa-u.ac.jp/>



KOMAZAWA UNIVERSITY *Link* (リンク)

Link とは、「人と人との繋がり」「伝統を繋げる」「地域と繋がる」という意味が込められています。イラストは、駒沢キャンパス正門よりキャンパス中央に位置する本部棟を望む風景を描いたもの。駒澤大学職員土合一夫氏による作品。